

石狩【札幌市】

やすだ かおり
安田 香織さん にじ色子ども食堂 主宰

1970年生まれ、札幌市出身。2001年、「労働と福祉を考える会」入会、路上生活者の支援活動、2009年、ホスピス病棟・生活介護事業所などでヨガのボランティアを開始。2012年、児童養護施設入所児童と交流。2015年、札幌初の子ども食堂「にじ色こども食堂」を開設。



ここに行けばみんながいる…一緒にご飯、食べよ

きっかけ

「子ども食堂」=「子どもの貧困」と結びつけられがちですが、それは私達の思いとは異なります。私は若い頃、アパレル業界に勤務し、「綺麗になる」ためのお手伝いをさせていただきました。が、美しさの価値を外側だけに求めることに疑問を感じ、内面性へ目を向け始め、様々な本を読み、路上生活・障がい・難病疾患の方など多くの方々と関わり、夜回り活動等にも参加しました。そして4年ほど前、児童養護施設の子供達と出会い、衣食住に不足無い環境で暮らす彼らの、物では解消しがたい辛さや悲しみを知りました。そんな時、東京の「こども食堂」を知り、主宰者の方を訪ねていきました。

苦勞

札幌市内で「子ども食堂」の活動をされている組織のお手伝いをしたかったのですが、当時、北海道に「子ども食堂」はなく、自分でやるしかない！と。フェイスブックで呼びかけたところ、湊厚子さん（調理班リーダー）から「うちを使って」と。また、費用は自腹を覚悟していましたが、友人で農家の娘・山下さん（食材調達担当）が野菜の提供を申し出てくれました。市内初の活動のため、周知にはハードルがあり、「子ども食堂」=「子どもの貧困」の先入観から、「子どもの貧困は親の責任でしょ？」とも。最初は、小・中学校へ伺っても門前払いでしたよ。

満足度

オープンから活動を支える4人のスタッフには各自の思いがありました。その思いが重なり子ども食堂を立ち上げ重なった思いが今、広がりを見せています。運営をサポートして下さる男性・女性、学生ボランティア、食材等を提供して下さる農家や企業等、そしてもちろん、小・中学生と保護者の方々。「子ども食堂」へ行く子どもを「貧しいから」と認識するのは考え直してください。ここは地域コミュニティとしてのふれあい場、子どもだけでは無く大人も楽しんでいる空間。学校ではなく、職場でも家庭でもない、第3の居場所。その居場所にみんなの笑い声が溢れている、至福の時です。

これから

現在、「子ども食堂」以外に、札幌市教育委員会を通じ就学援助家庭へ食材提供する「にじ色おすそ分け事業」、「にじ色学習スペース」等を行っています。持続した活動の為には、揺るぎない基盤を構築したい。また、子ども達に提供したいものは食事ではありません。見知らぬ誰かと食卓を囲むことにより、他者への気遣い等の社会性を身につけて欲しい。行政は行政の、私達は私達の、各自が役割を担い社会は動く。そういった視点で活動を続け、いつか地域の各家庭がオープンとなり子ども達を迎え入れ、「子ども食堂」は不要となるのが願いです。

北の★女性たちへの
メッセージ

いくつになってもチャレンジすることを忘れないでください。自分自身の限界を自分で決めないでください。今しようとしていることは、自分のために、人のためになるのだと、恐れずに動き出してほしいと思います。

石狩【北広島市】

あらい かなこ
荒井 賀奈子さん 荒井養蜂場株式会社

1973年生まれ、静岡県出身。東京都内の短大卒業後、都内の輸入食品会社や出版貿易会社に勤めながら、海外旅行で20か国以上を巡る。スペイン旅行中に夫と出会い、結婚。都内で長女出産後、夫の実家の養蜂場を継ぐこととなり、2002年に北広島市へ移住。3児の母。



祖父から継いだ天然はちみつを身近に感じてもらいたい

きっかけ

独身時代は、一人が気ままに海外旅行を楽しんでいましたが、スペインで夫と出会い、結婚後は東京都内で生活していました。長女を出産して間もなく、北広島市で養蜂場を営んでいた夫の祖父が体調を崩し、事業をたたむと知らせがありました。私も夫も「継ぎたい」と思い、幼い長女を連れて北広島市への移住を決めました。迷いや抵抗はなかったですね（笑）。今は夫が4代目として継ぎ、私と夫は販売や営業を担当し、夫の弟が養蜂を担当しています。はちみつは、北広島市内の店舗での販売のほか、札幌地下歩行空間等で出店させていただいています。

苦勞

私たちがはちみつは、地元周辺の花から採取する100%天然のものです。ミツバチも花も生き物なので、気候などの影響で収量や味が左右され、願っても思いどおりにならないところが難しいですね。ミツバチはデリケートなので、越冬のため11月から5月上旬頃まで巣箱ごと鹿児島県に移動し、ミツバチの体調と開花の頃合いを見て北広島市に戻る、という方法をとっています。はちみつ採取の時は、自然の味を求めて山にこもることもあります。市街地や工業地帯が徐々に増え、自然が減っていると感じています。

満足度

祖父が誠実に、偽りのないやり方ではちみつを作ってくれていたの、それを引き継ぐことができたことを誇りに思っています。花の種類を分けて採取し、自然の味を提供しています。お客様からは、「本当に100%天然なの？」と聞かれることもありますが、一度味わっていただくと「おいしい！」とリピーターになってくださる方も多いので、とても嬉しく、やりがいを感じています。養蜂家が直接販売することで信頼を得ることができているので、自分たちの手でお客様に届けていきたいと思っています。

これから

天然のはちみつを、もっと多くの方に身近に感じてもらいたいと思っています。特に若い方や子どもたちにもはちみつの美味しさをもっと知ってもらって、日常の食卓で気軽に食べてもらえるようになれば嬉しいですね。年1回、近所の小学校の授業で養蜂業の学習に協力していますが、もっと食育としての関わりを増やしたいです。また、はちみつの美容効果について、レシピを付けたりマッサージ体験を提供するなどして、若い世代にもPRしていきたいです。でも、あまり活動を広げすぎず、昔からのお客様も大切にしながら、自分たちの手の届く範囲でやっていきたいです。

北の★女性たちへのメッセージ

やりたいと思ったことは、まず行動してみてください。やってみたら意外と簡単なものです。自分で選んだ道なので、自分を信じてやってみましょう。失敗は失敗ではなく「良い経験」です。周囲を巻き込んで、時には自分を甘やかして、がんばりすぎないでくださいね。

代表理事の桑島まゆみさんと理事の藤田絵理子さんが2016年に設立。整理収納アドバイザーの桑島さん、不動産鑑定士の藤田さんの他、専門家会員（全員女性）が片づけや不動産処分、相続、介護に伴う一連の相談を1つの窓口で受け、支援している。

藤田絵理子
不動産鑑定士
宅地建物取引士
ういーら理事

浅木 裕子
社会福祉主事
主任介護支援専門員
WEBデザイナー

大宮麻由美
司法書士

桑島まゆみ
整理収納アドバイザー
ういーら代表

杉田 恵子
理学療法士
福祉住環境
コーディネーター

奥野 舞
弁護士
社会保険労務士

佐藤みはる
看護師・助産師
メノポーズ
カウンセラー

清野 直美
税理士
行政書士

宮本 優子
特定社会保険労務士
キャリアカウンセラー

50代60代の女性が諸問題でベストの選択ができるよう支援

きっかけ

私の母の圧迫骨折を契機に介護がスタート、はじめは誰に何を聞いていいのかもわからず、手探りでした。更に母のモノや叔母の家の整理収納を手伝い、シニア世代は若い人のようにスムーズに片付けができないこともわかりました。このような体験に基づき、ミドル、シニアの方々の健康や介護、さらに不動産処分とそれに伴う片づけや登記、相続などを一貫してサポートする組織の必要性を実感し、女性専門家グループを作りました。今は、個人・企業の片付けサポート、不動産処分などの相談対応やセミナー開催をしています。

苦労

一般の方にこの活動を知ってもらうことが大変です。セミナーなどを開催するときは、ホームページやフェイスブックなどで情報を流しています。ただ、私たちが来て欲しいと思うミドル・シニア世代ではインターネットをしらない方もいますので、手作りのチラシを配ったり新聞で告知しています。不動産や空き家処分などで困っている方は、女性専門家に繋いでいろいろな解決方法を一緒に考えることができますので、一度ご相談いただきたいと思っています。電話相談は初回30分無料となっていますので、気軽にご利用ください。

満足度

テレビなどで整理収納を知って実践したが挫折してしまった受講者さまの中には「片づけられない原因がわかりました」と笑顔で話してくださる方、更に整理収納アドバイザーの資格を取る方もいます。離れて暮らしている親の住み替えに伴う片づけのご依頼を受けた際には、最後まで責任を持って作業しますので、不動産の引き渡しやその後の手続きもスムーズで、依頼主さまには「良かった」と大変喜んでいただいています。一つの窓口でそれぞれの専門家と連携して一気に解決できるので、「助かった」と言われます。

これから

私の介護経験から事前に勉強をしていたので、相談者さまに多くの選択肢をご提供することができます。私たち専門家もプライベートでは介護などの経験がありますので、相談者さまに寄り添った対応をしていきます。今後は介護事業所と連携し、介護保険外サービスとしての片づけ作業や相談業務を実施します。また介護を支える年代が抱える問題点を探り、必要な情報を届け、いざというときに最善の選択ができるためのサポートをしていきたいです。札幌圏だけでなく全道にも展開していく予定です。ミドル・シニア世代の女性が安心安全に暮らせるよう頑張ります。

北の★女性たちへの
メッセージ

やってみようと思った時に動きましょう。夢は、周囲に語ってください。やりたいこととできることが違うこともありますが、自分にはできないと思っていても、サポートを受ければできることもあります。家族や周りの人をうまく味方に付けてくださいね。



石狩【札幌市】

ぬぎ た けい い ち
貫田 桂一さん ヌキタ・ロフィスト 代表&フードディレクター

1960年生まれ、千歳市出身。辻学園日本調理師学校（大阪府）卒業後、札幌市内のホテル・レストランで修業。1992年からホテルクラブイーサッポロ料理長となる。2007年に早期退職し、食に関する指導・助言を行う「ヌキタ・ロフィスト」を設立。



心を創る食べものや料理を通じて女性を応援していきたい

—食に関する指導を始められたきっかけは？

ホテルの料理長を務める頃から、地域食材のよさに着目し、休日は道内の様々な産地を巡っていました。そして、店内でも道産食材を使った料理を提供し、「ご当地食材」としてご紹介していたところ、各方面から地産地消等に関する講演等の依頼を受けるようになりました。回数をこなすうちに、ホテルの中だけでは伝えきれないことを直接、現地で伝えられるということに気付いたのです。そこで、早期退職後は食の指導や助言を行っていくことにしました。

—貫田さんのご講演や料理教室に参加すると、女性が元気になるそうですね。

これまで、多くの女性に料理をお教えしてきましたので、顔色を見て食生活のご指導ができることもあります。料理教室では、当初、気力の下がった女性が、何度か通ううちに、みるみる元気を取り戻す、ということもありました。体調を推断して食生活への助言をし、人生も楽しくなるような料理方法も伝授しますので、皆さん元気になりますよ。

—北海道の女性の印象は

おおらかで明るく、「なんもさ」「いいっしょ」と気を許してくれる女性が多いと思います。でも、仕事には真剣だという印象がありますね。また、団結することで強さを増すように感じています。

—道内各地域の女性の印象は、いかがですか？

女性の力は、第一次産業において、特に重要です。中でもわたくしたちの心は、食べものから創られると考えているので、女性は、日本の心を養う産業を担っているとも言えるでしょう。それに、おいしい食べものがある地域は、女性が活き活きと楽しそうに仕事をされています。男性は、もっと女性を褒めて、感謝の気持ちを積極的に伝えることで、仕事がよりうまくいくと思いますよ。

—女性を応援する「女性の活躍応援自主宣言」をされていますね。

女性の能力は、食べ方次第で素晴らしく開花します。そのために、指導や助言を積極的に行います！また、わたくしは料理人ですから、食材を生産してくれる、第一次産業の女性には特に感謝の気持ちで接します！さらに、女性のおもてなしには、ときどき特別扱いもいたします！

—これから、どのように女性を応援していきたいですか？

年を重ねても元気で、寝たきりになりにくい食事法の指導や、個人の生き方に合わせた食べ方の指導をしていきたいです。また、「食べ方占い」のような気軽な食生活指導もやってみたいですね。料理教室、講演会等を契機に、個性に沿った食生活を提案していきたいですね。

北の★女性たちへの
メッセージ

何かを始める時は、自分が楽しんでやれそうかどうかを考えてみてください。誰かの勧めや周囲のためではなく、あなた自身が楽しいことが一番です！脳に血液を巡らせ、自分の魂が喜ぶような食事をしてください。あなたが元気に活躍できるよう、料理や食べ方をご指導しますよ。



石狩【札幌市】

はこやま こうた
箱山 昂汰さん 北海道大学医学部医学科4年

1993年生まれ、愛知県名古屋市出身。大学4年次から2年間休学し、43か国を巡る世界一周の旅に出る。その旅の中で臨月の妊婦さんのお腹の重さと同じ10kgの水を入れた妊婦体験ジャケットを現地の男性に着けてもらうプロジェクトを企画・実行。全世界で1070人に妊婦体験をしてもらった。



箱山さん(左)と妊婦体験ジャケットを試着した方



男性の考え方を換え、お母さんに優しい世界を作りたい

—妊婦ジャケットと一緒に旅行することを考えられたきっかけは？

高校3年生の頃、将来は国際医療に従事したいと夢見て、医学を志しました。大学入学後、様々な勉強をする中で母子保健に興味を持ちました。理由として、開発分野の中で特に困ってそうだと感じたこと、シングルマザーで育て上げてくれた母の存在があります。自らの母への感謝がお母さんという生き物自体に対する尊敬へと繋がりました。そして大学1年生の終わりに、ひとまず学生のうちに世界を知りたいと思い、休学して世界放浪の旅に出ることを決意しました。準備をしていく中で、自分だけの特別な世界一周にしたいと思い、夢である母子保健を取り入れた旅を模索し、妊婦体験ジャケットを閃きました。

—旅行中にご苦労されたことは？

海外では妊婦体験の概念自体無い国も多く、趣旨を伝えるだけで一苦労でした。やってもらえそうだなという雰囲気の人に声をかけても3人に1人ぐらいしか体験してもらえず、嫌な顔をされたり馬鹿にされたりすることばかりでした。ひとり旅なので悔しい気持ちを日本語で近くの人に吐き出すこともできず苦しかったです。また、こんなちっぽけで訳の分からない活動に意味があるのかと自問自答する日も多く、自己嫌悪に陥ったりしていました。

—活動の中で嬉しかったことや、満足されていることは？

妊婦体験をしていただいた後に「あなたの赤ちゃんや奥さん、お母さんを大切にしてください。女性を尊敬する心を持って、素敵なパパになってください」と伝えてきました。ときどき、目を潤ませてしっかりとこちらを見返してくれる方がいて、自分のメッセージが伝わったんだと嬉しくなりました。世界中にたくさんいる男性のほんの一部にしかメッセージを伝えることができませんでしたが、目の前の一人にしっかりと伝えられたと感じられたとき、この旅をしてよかったと心から思いました。

—これから、この体験をどのように活かしていきたいですか？

妊婦体験ジャケットを着てもらいながら世界一周した、全世界で初めての人になれたと思います(笑)。今回の旅は僕に自信をつけてくれました。子供が大好きなので、彼らを支えられる、しかも誰もしたことの無いような仕事をして、僕らしく世界と関わっていけたらと考えています。また、一番の目標は僕自身が良いパパになることです。暖かい家庭を築いて、今度は妻や子供と一緒に世界を見て回りたいです！

北の★女性たちへのメッセージ

僕の見てきた世界は、本当に広大で冒険に満ち溢れていました。世界にワクワクして欲しいです。どんどん飛び出して行って欲しいです。その時、ぜひ強い目的意識を持って、自分の人生の舵を自分で切って行って欲しいです。あなた以外に誰にもできないような、スーパーすごいことが絶対にあります！



石狩【札幌市】

かぶしきがいしゃ
株式会社アレフ

1968年、「ハンバーガーとサラダの店・ベル」岩手県盛岡市で開店。1980年、ハンバーグレストラン「びっくりドンキー1号店」札幌で開店。翌年本社を札幌へ移転。2012年に「くるみん」認定、2016年に「北海道あったかファミリー応援企業」登録。



「食」の提供を通じて、人の幸福と健康に貢献

きっかけ

10年ほど前、セクハラ防止・予防活動を発展させ、女性目線で様々な提案を行う「職場環境向上委員会」を立ち上げました。メンバーはすべて女性で、全国から30名ほどが集まり意見を出し合い、トップに提案するなど活動は3年ほど続きました。しかし、「女性限定の活動」に対し、男性社員の理解を得られず、結果的にうまくいきませんでした。この活動を反面教師として、男女ともに働きやすい環境づくりを目指すことが女性の活躍、そして企業の発展につながるものと考え、社内の制度づくりに取り組むようになりました。

苦勞

「女性の活躍」については、まだまだ道半ばだと思っています。女性の勤続年数は、平均7、8年で男性の半分程度ですし、女性社員数もここ数年20%程度で推移しています。他方で、2012年に子育て支援の環境づくりに取り組むサポート企業として「くるみん認定」を受け、4年後には育児・介護等の「家庭」と仕事の両立支援を応援する「北海道あったかファミリー応援企業」に登録しました。女性はもちろん、男性も柔軟に働くことができる環境づくりや「働き方改革」を進めるための社内制度の構築を現在進行形で進めています。

満足度

当社の創業は1968年12月、岩手県盛岡市。ハンバーガーとサラダの店として誕生しました。「お客様の楽しいお食事」のために、スタッフ総出で内装を手掛け、店の主力メニューをハンバーグランチへ転換しました。店頭を季節の草花で彩り、女性目線の細やかな配慮も心がけています。「食・農業・環境」のつながりを大切に事業展開するため、従業員自身が「安心して働ける環境」が大切です。くるみんの認定、短時間正社員や地域限定正社員の導入、手話通訳者の配置等、ダイバーシティに取り組んでいます。

これから

すべての店舗に1950年代の「商業界」主筆、岡田徹氏の詩「小さな店であることを恥じることはないよ その小さなあなたの店に人の心の美しさを一杯に満たそうよ」を掲示し、アレフの道しるべとしています。創業から50年を経て、現在は大きくなった会社の仕組みや組織を丁寧に整備している時期といえます。女性のキャリアアップ支援をはじめ、育児や介護、病気との両立など、当事者の声を取り入れながら社員全員が安心して働ける環境を構築し、お客様に何度も来ていただける魅力ある店舗づくりに努めていきます。

北の★女性たちへの
メッセージ

今を大切に、周囲とのつながりを大切にしていくことできっと道が開けると思っています。「食は人を良くする」という、生きていくことの基本を大切に、アレフは北海道で頑張っている女性を美味しく、安全・安心な「食」で応援します。



石狩【札幌市】

かぶしきがいしゃ
株式会社サッポロドラッグストアー

1972年、札幌市で創業。83年に(株)サッポロドラッグストアーを設立。2016年「ダイバーシティ・健康戦略推進担当」を新設。2017年に道内ドラッグストア初の女性活躍推進法に基づく「えるぼし」最高位の3つ星を取得するとともに、「パートタイム労働者活躍推進企業表彰」奨励賞受賞。



多様な働き方を通して、活躍し続ける人材を育成

きっかけ

かつて女性は、結婚や出産、子育てといった人生の節目を迎えるたびに、仕事と家庭の比重の見直しを迫られ、キャリアを諦めてしまうことも少なくなかったところでした。しかし、これは本人や会社だけでなく、社会にとっても大きな損失です。働き方が多様化すれば、多様な価値観が生まれ、それがお客様の新たな視点を育むことにもつながります。「一人ひとりが違っていい」といった、多様な個性を尊重する価値観を会社全体に浸透させるため2016年2月、「ダイバーシティ・健康戦略推進担当」を新設しました。

苦勞

現在、当社の係長級や管理職に占める女性の割合はまだまだ低いと感じており、それぞれ20%と12%を目標に人材育成を進めてまいります。女性の活躍はマーケティングやマネジメントの両面において欠かすことができない重要なファクターです。札幌市の女性比率は全国よりも2%ほど高く53%ほどですし、当社従業員ですと70%を超えます。2010年「ハタラクカタカエル委員会」を、16年には前出の新部署をつくり、女性の活躍推進、そして誰もが活躍の場を持てる多様性のある組織づくりに取り組んでいる段階です。

満足度

2017年に道内ドラッグストア初となる、厚生労働大臣認定の「えるぼし」最高位3つ星を取得しました。女性が活躍している企業に与えられ、5つの評価項目において優良な実績が認められました。また、パート労働者の待遇改革を評価され「パートタイム労働者活躍推進企業表彰」奨励賞（厚生労働大臣）を道内で初めて受賞しました。子育て世代には、育児短時間勤務（小学3年生まで可能）や、保育園への送迎経路を通勤とみなす通勤手当の支給、育児参加休暇の新設など柔軟な対応が好評です。

これから

女性が長く活躍できる職場環境づくりに、今後とも力を入れてまいります。さらに、今後、多様な働き方を推進するにあたり、「副業・兼業制度」、「在宅勤務制度」、エリア社員と契約社員を同じ雇用区分とする「専任職制度」、行政がパートナーと認めたLGBTをパートナーとする「パートナー登録制度」にも取り組むなどして、すべての従業員がいきいきと輝くことができる働き方を目指していきたいと考えております。多様なニーズを見据えて、常に柔軟に変化し続けるとともに、お客様にとっての新しい価値を今後も創造してまいります。

北の★女性たちへの
メッセージ

どのような形で自己実現をしていくのか、きちんと方向性を見極め、自分らしく輝いてほしいと考えています。企業としては、仕事に誇りややりがいを感じながら活躍してもらうために、今後ともより働きやすい環境を整えてまいります。



2015年、女性リーダー塾参加をきっかけに集まったメンバーが、女性ネットワーク「EF-NET（エフネット）」を有志で立ち上げる。現在、定期的に学習会等を開催。企画・映像プロダクションの（株）シンクが事務局及び会場の提供等をサポート。



集い・学び・育む～Education of Future women leaders～

きっかけ

札幌の企画・映像プロダクションである（株）シンクでは、働く女性を映し出すドキュメンタリー「femme北海道」というWeb番組を自主企画で制作・配信しておりました。「femme北海道」の制作ディレクターは、出演者と同じ目線で働く女性。彼女が2015年に道庁が企画・募集した「まなび・つながる☆北海道女性リーダー塾」に参加いたしました。期間が決まっているリーダー塾、しかし、「せっかく繋がった女性のネットワークを大事にしたい！」との思いから、リーダー塾参加の有志メンバーたちが「EF-NET（エフネット）」を立ち上げ、現在に至っております。

苦勞

公式の研修等は業務の一端として、時間調整が可能です。しかし、自主的な集まりである私たちの会「EF-NET」の活動はやはり、時間のやりくりが大きな課題。残業や出張、介護や子育てというダブルワークの中で、いかにして活動する時間を見いだすかを考え、答えを模索することもまた、「EF-NET」の存続理由だと考えております。今後はネット会議の活用など解決の可能性がある策をどんどん試していきたいと考えております。

※「EF-NET」の主なメンバー
（株）シンク、リコージャパン（株）、シンセメック（株）、NTTソルコ&北海道テレマート（株）、（有）ボイスオブサッポロ、北海道コカ・コーラボトリング（株）他

満足度

異業種・他企業の方々とコミュニケーションをとる喜び。様々な環境の違いによるギャップが、気付きや新たな学びへと誘（いざな）う、そんな手応えを感じます。メンバーとのディスカッションで生まれる共感や共有が、「何かを変えていける！」という自信と安心の呼び水となるのです。「EF-NET」の会合はメンバーが持ち回りでプレゼンし、それを議題に意見交換を行い、アドバイスや応援メッセージをプレゼンターにフィードバックするもの。当初から継続するこのルールにより、愚痴や不平不満に終始しない会の運営が図られ、だからこそ意義深いものになると、自負しております。

これから

いずれはメンバーと企業経営者によるディスカッションができれば、と考えております。企業人として経営陣の共感を得られなければ、変化は難しいと考えております。培ったキャリアを、ライフイベントで中断しない働き方など、改革していきたいことはたくさんあります。また、メンバーの勤務先企業を訪問させていただき、経営者の方だけではなく様々な企業で働く多様な方々と語り合うような、そんなカテゴリーを越えたコミュニケーションの場を創造したい。未来を見据え目指すのは、性差にとらわれない「一企業人」としてのアイデンティティの確立。後世の女性たちに誇りを感じて貰える、自分たちでありたいです。

北の★女性たちへの
メッセージ

誰に出会うかで人生は変わると聞きます。それなら、自分の幅や居場所をちょっとだけ広げてみませんか。ちょっとだけ広がった処から見える景色や出会う人は今までと違うはず。習い事をする、キャリアプランを実行する、小さな変化にあるチャンスの「前髪」をしっかり掴みとって！！



石狩【札幌市】

ほんましゃかいほけんろうむしじむしょ
本間社会保険労務士事務所

2002年開業。代表の本間あづみ氏率いるスタッフ全員が女性であると同時に育児中であるという。本業のほか、本間代表の講演や講師派遣なども多数実施。「人を大切にし三方良しの職場をつくる」を経営理念にし、5つの行動指針をスタッフ自らが考え掲げている。



行動指針は、チームワーク・他者理解・チャレンジ精神・・・

きっかけ

スタッフ全員が子育て中の女性のため、出産、育児、夫の単身赴任など、女性特有のライフステージに合わせた柔軟な働き方は、「こうなったらいいね!」ではなく、必須アイテム、です。今年(2017年)の3月には道の女性支援室へ、「女性の活躍応援自主宣言」を提出、ワーク・ライフ・バランスの実現へ、歩を進めています。

〈自主宣言 抜粋〉～看護休暇や介護休暇に限らず、予防接種、PTA活動、授業参観などのスクールイベント、不妊治療の際に1年間で5日間、年次有給休暇とは別に有給での休暇を付与。子連れ出勤やテレワークなど多様な働き方を容認。～

苦勞

出産・育児等の経験者同士こそその共感があり、困難な場面では協力し、助け合うことができます。が、「経験がないから理解できない」では、社会全体のダイバーシティは進みません。持続的な経営戦略のためには、ダイバーシティインクルージョン(多様性を尊重し受容することで、それぞれの強みや持ち味を発揮しイノベーションに繋げる)が必要。追い風の女性活躍推進、一方で職場のいじめ嫌がらせ等のハラスメントが社会問題化しています。今こそ、企業はダイバーシティインクルージョンを推進しつつ、経営理念の明確化と共有による働きがいのある職場づくりに取り組むことが重要と考えます。

満足度

女性が働き続ける上でそれを是としない風土、更に女性自身の中にも働き続けることへの抵抗感等が存在します。企業等へ直接あるいはセミナー等を通じ、女性が働きやすいだけでなく働きがいを持ち働くための職場づくりについてお伝えし、経営者・従業員が、目先の利益にとらわれず中長期的な視点で積極的な取り組みをしてくださることが励みとなっています。

～スタッフの方から「本間の夢は私の夢ですから」との言葉がありました。理念に共感するからこそ、同じ目標へ向かうことが働きがい、と伝えていただきました。

これから

互いの持つ可能性(強みや持ち味)を最大限に発揮させることができる、成長しあえる強い組織を目指し、ダイバーシティインクルージョンを更に推進していくと共に2025年の介護ショックに向けて、育児だけでなく介護との両立、闘病との両立も可能となる働き方を模索していきます。常識を打ち破る発想力やチャレンジ精神を大切に、働きやすく働きがいのある職場づくりを自ら追求するとともに、北海道の女性もっと能力を発揮できる職場づくりを企業に提案していきます。

北の★女性たちへの
メッセージ

働きやすく働きがいのある職場は、ひとりひとりの相手を尊重する思いから作っていけるものです。お互い様と思いあうことで、組織はどんどん良くなります。みなさまがこれからも持ち味を活かし活躍できることをお祈りいたします!



ほっかいどうじょせい い し かい 北海道女性医師の会

2003年4月設立、北海道在住の女性医師の社会的QOLの向上を目的とし、全道各地の女性医師のサポート・ネットワーク構築に取組む。日本女医会北海道支部の活動として、子供を健やかに育む委員会(ゆいネット北海道の運営)・医学生とのキャリア形成懇談会など。2017年4月新会長に新谷朋子医師選出。会員は225名。



「結～with you～」 一人ひとりが輝く活動をめざして

きっかけ

医療崩壊・医師不足が叫ばれる昨今、医療の現場では多くの変革が求められています。医学部女子学生も年々増加し3割を超え、今後さらに女性医師の社会的活躍が期待されるとともに、早急に女性医師が働きやすい環境づくりが必要と考えられます。2003年4月に設立して以降、女性医師の親睦に加え、育児支援、就労環境調査、北海道女性医師史編纂、思春期の性的問題や性差医学の勉強会などの活動をしてまいりました。現在、大学や全道各地に本会の情報交換・交流の場、女性医師および女子学生のサポート・ネットワークを構築しています。

苦勞

離職率が高い女性医師の現状を医療界全体で考えていく時期に差し掛かっています。10年前から複数の大学が連携し、「出産、育児等で一旦戦線離脱しても復職可能」を示すロールモデルを出していただいています。女性が継続し働くためには本人の意識はもちろん大切ですが、医療界全体で、女性医師の活用を考えていくことが重要であります。ワークシェア等の検討も必要です。この会が若い女性医師たちにとって先輩より学ぶ場となるよう、また先輩医師たちにとってこの激動の時代を乗り越えていかなければならない後輩医師たちを援助・激励する場になるよう、活動しています。

満足度

女性医師の視点を活かした活動が「ゆいネット北海道」です。2011年に当会が主体となり「ゆいネット北海道」を創設、性暴力の被害者支援とともに子どもの健やかな成長を守る活動を展開、2012年9月にNPO法人の認定を受けました。更に同年10月、性暴力被害者支援センター北海道「SACRCH」を開設、電話相談・医療支援等を行っております。性暴力被害者支援は、医療・弁護士等、各分野で行われていますが、個別事案の対応は個人的な人脈で連携の道を探るのが現状。そうした中、私たちの活動は異業種間の横断的連携の意味で一定の役割を果たしていると自負しております。

これから

医学生時代、男女の区別はしません。一方で、北海道医師会の女性役員は現在1人。10年前に当会では、「女性医師が働きやすい職場となるように。」と北海道医師会の会長へ申入れました。現実的に考えれば、女性医師が増えるとワークシェアが可能となり、現在注目されているチーム医療も男女共同参画が進むことで実現しやすくなるかと思われます。北海道は女性医師の会単独の活動が非常に盛んに行われ、女性医師・医学生だけではなく、全女性が享受できる健康支援及び労働環境改善に向けた活動により次世代へつなげる幸せな社会づくりへ貢献してまいります。

北の★女性たちへの メッセージ

生きていく上で多くの方が千差万別の、悩みや課題を抱えており、私たち女性医師も同様です。しかし、仕事を持つことが自分自身の自信になるとともに、目標やファクターともなります。自分が選択した人生、誇りをもって生きてまいりましょう。

なまら岩内^{いわない}

岩内町出身の「かなっぺ」こと吉田奏見さん（左写真：右）と、「みかちゅ」こと藤田美香さん（左写真：左）の2人が、町の魅力を発信することを目的に2016年に設立。フェイスブックでの情報発信を中心に、取材先へのポップやステッカーの配置等の活動を展開。



町の魅力を発信し、地元事業者と共に盛り上げる！

きっかけ

岩内町生まれ、岩内町育ちの私たちは幼なじみで、お互い地元愛に溢れていました。でも、こんなに魅力的な町なのに周囲の人たちはそれに気付いていない！同世代や若い子達は町外に出てしまい、友人からは「何もない町でしょ」と言われていました。町のおもしろい情報はあちこちに点在しているのですが、繋がっていませんでした。今のままでは、町の魅力を伝え切れていない！発信できていない！そこで、点在している情報を繋げるような活動をしたいと思い、フェイスブックを立ち上げて、町の様々な情報を発信することにしました。

苦勞

やりたいことしかやっていないので、苦勞は全くありません（笑）。起業している訳ではないし、好きな時に好きなことをさせてもらっています。最近、幾つかのメディアで取り上げてもらったので、町での知名度が上がってきており、町内の事業者から「取材してほしい」と言われることも増えてきました。でも私たちは、自分たちの足で取材し、見て体験して感じたことしか投稿しないので、チラシ1枚だけ送ってきて「投稿して」と依頼されるようなことは困りますね。全部自分たちで、体張ってやっているんですから（笑）。

満足度

なまら岩内を立ち上げたのは、町内に点在する情報を繋げて、町の事業者同士の繋がりを作りたいという思いがあったからです。なまら岩内をきっかけに、同世代の事業者や宿泊施設、観光業の関係者等がざっくばらんに語り合い、問題の解決策と一緒に考えられるようになったことは良かったと思います。そして、事業者の方々に何か還元できるようになれば、嬉しいですね。私たちがフェイスブックに投稿した商品が、ヒットして売れるのは一時的なことですが、それを続けていくことで地元の事業者と一緒に町の観光を盛り上げていくことが、一番の目標です。

これから

なまら岩内の写真部を立ち上げます！フェイスブックを始めてから地元を離れた同級生と繋がるようになり、その中の一人が写真をやっていることを知りました。そこで、写真を撮影しながら町の魅力を探したり、SNSで上手に投稿できる写真の写し方等を学ぶ場ができればいいなと思ったのです。そして、写真部で撮影した写真の個展を開きたいと考えています。あとは、なまら岩内のリーフレットも作りたいですね。今の情報発信方法は主にSNSですが、SNSになじみのない方々にもなまら岩内の活動を知ってもらいたいと思っています。

北の★女性たちへのメッセージ

一生はあっという間ですから、好きなことや楽しいことをする方がいいです。1日24時間というのはみんな一緒に、それをなんとなく過ごすのはもったいない！家事や子育てで大変な時こそ、好きなことが息抜きになります。精神的に自立して、自分の時間を持ちましょう。

後志【積丹町】

おおさか せつこ
逢坂 節子さん 積丹観光協会 事務局長

東京都墨田区出身。大妻女子短大卒業後、東京都内で就職。結婚し、夫の実家がある積丹町に移住することとなり23歳で退職。2人の娘を出産後、積丹町役場、積丹漁協での就労を経て1995年4月から現職。女性の視点を活かした商品開発や観光振興に取り組む。



お客様目線の観光で積丹半島全域をPR！

きっかけ

役場や漁協などで町に関わる事業を行ってききましたが、さらにやりがいのある仕事を探していたところ、観光協会を勧められ、現職となりました。観光のお客様を拝見していると、ほとんどの場合女性が中心となって「ここに行きたい、これを食べたい」と、旅行内容を決めています。そこで、女性に受けるお土産を開発したいと考えました。ちょうど、神威岬方面、北海道開発局の土地内に飲料にもなるきれいな水があることがわかりました。これを活用し、町の特産物に合うことはもちろん、女性に好まれる甘口日本酒「丹水」を開発しました。現在は、辛口原純米酒もご用意しており、町内の酒屋・旅館等、また、観光協会でご購入できます。

苦勞

1996年2月、豊浜トンネルの事故をきっかけに、観光客が激減しました。その後トンネルは整備され、今では日本一安全な国道になったと自負していますが、町のために観光協会として何ができるのかをずっと考えていました。まず、後志管内において観光協会の存在を知ってもらおうと、伸び悩んでいた冬の観光の目玉として「どっこい積丹冬の陣」というイベントを始めました。鍋と鮭の食べ放題をメインに長期間で実施した結果、大人気のイベントになりましたが、寿司職人の方々の負担が大きく継続が困難となり、10年で終止符を打ちました。

満足度

冬の大きなイベントがなくなり、何か新しい企画をと考えた結果、早春にイベントを実施することにしました。積丹町には、海だけでなく川も多くあり、春にサクラマスが遡上する余別川に着目しました。若手漁業者、余別・海HUGくみたいと連携し、「さくらます祭り」を開催しました。今年で4年目ですが、大変ご好評いただいております。また、漁業者と観光業者がつながることで、漁業者は消費者の声を直接聞き、観光業者は豊かな自然があってこそその観光であると再認識することができたので、双方に実りのあるイベントとなっています。

これから

積丹町は自然豊かな町ですから、環境を保全しなければなりません。その取組の一つとして、三大岬（黄金岬、積丹岬、神威岬）の遊歩道に募金箱を設置し、観光施設の整備に役立てています。また、町内のPRだけでなく、積丹半島全域をPRしたいとの思いから、半島内の7町村がタッグを組んで「しゃこたん半島観光振興会」を立ち上げました。この地域はドライブ観光がメインですから、車で立ち寄って楽しんでいただこうと、食と景観のご案内と温泉スタンプラリーを開催しています。これからも、お客様目線での観光をご提供していきたいです。

北の★女性たちへの
メッセージ

北海道の冬は長いので、それを乗り越えて春になった時の喜びが一段と大きいと感じます。長い冬を家で過ごす北海道の女性だからこそ、ぜひ外に出て社会や地域との関わりを持ってほしい。家にこもってばかりではダメ！あなた自身の春を探して、外に飛び出してみてください。

胆振【豊浦町】

やの やすえ
矢野 靖恵さん NPO法人ぽけっと 放課後等デイサービス スタッフ

1973年、豊浦町出身。伊達肢体不自由児者父母の会の活動に長く携わり、会長を5年間務める。地域障がい者相談員、豊浦町障がい者福祉計画策定委員会への参画など、地域福祉推進のリーダー的役割を担い活動。その後、NPO法人ぽけっとにスタッフとして関わる。



左：櫻井さん、右：矢野さん



このまちで生まれ・育ち・家族を得た、この先もずっとここで…

きっかけ

「伊達肢体不自由児者父母の会」のメンバーとなって、20年経ちます。そこで出会った櫻井所長と、放課後等デイサービス開設に向けて、NPO法人設立に関わっています。ここに至るきっかけは、現在21歳となる二男が1歳の時、細菌性髄膜炎を患い、幸運にも九死に一生を得たことから。命はとりとめました。後遺症として、重度の障がいが残りました。どんな状態でもいいから生きて欲しいと祈り、その願いに応え還ってきてくれた息子に感謝し、覚悟を決めたのです。今後、彼が生きていくには誰かの手を借りなくてはならないと。

苦勞

現在、開設準備中の放課後等デイサービスは「小学校1年生から18歳までの発達に課題を持つ子どもたち」を対象とする、これまで豊浦町に無かったサービスです。かつて息子が学齢となった当時、町の小学校ではまだ肢体不自由児を受け入れた実績はなく、町役場や学校に相談し、校舎をバリアフリーにするなどの配慮をしていただきました。息子は豊浦町の小学校を終え、室蘭市の養護学校へ行き、卒業後再び、この街へ戻ってきました。今、日中は、伊達市内のデイサービスに通っており、私が自家用車で毎日、送迎しております。

満足度

高校卒業後まもなく結婚・出産しました。子育て経験は我が子のみ。だからこそ今、デイサービス子ども達から学んでいます。子ども達の初々しい思いやり、相手を許す優しさ、さらに集団生活を体験し同世代の仲間と触れあうことで大きく成長する子ども達の姿や笑顔に励ましを見いだしながら、一緒に成長させて貰っています。余談ですが、息子は食事の際、食べこぼし防止のエプロンが欠かせません。が、同世代の仲間との食事では絶対、エプロンをつけない。彼なりのプライド。すっかり一人前、2年前に逝去した夫似の、イケメンです！

これから

このまちで暮らしていく、ずっと。ここが大好きだから。伊達市では、車いすユーザーかつ気管切開した方が、グループホームに入所し自立して暮らしています。一方、息子は室蘭市の養護学校高等部卒業後、このまちに戻ってきましたが、日中の行き場は無く伊達市内まで毎日通っています。障がいがあっても高齢でも、ここで暮らし続けるためには、在宅にしろグループホームや事業所にしろ、一定の環境が必要です。誰もが希望した場所で、安心して暮らしていける社会を目指し、私は、必要な資格を取得し、様々な方と手をつなぎ、持ち前の明るさを武器に、前へと…。

北の★女性たちへの
メッセージ

親という立場から支援者として踏み出した今、景色が180度違う中で奮闘しています。夢や想いを言葉に出すことで、話を聞いてくださる、手を携え支えてくださる、そんな方々と出逢うことができました。小さな一歩が、大きな大きな原動力となっています。

胆振【安平町】

ないとう けいこ
内藤 圭子さん NPO法人ココ・カラ 代表理事

1960年生まれ、函館市出身。1988年、1年間のデンマークでの農業研修で農業のすばらしさに目覚める。結婚により安平町へ。2011年、仲間と「ココ・カラ」を設立、翌年法人化。講習会や加工品、お弁当などで、地元食材の豊かさ・おいしさを伝えている。



地元食材の魅力を発信し、人を呼び込み、地域を元気に！

きっかけ

出身は札幌、大学も札幌、農学部ではありませんが、幼い頃から農業への憧憬が強く卒業後1年間、農業実習の研修でデンマークへ。帰国後、道内の農家で修業、縁があって、農業者である現在の夫と結婚しました。安平町で農業を営みながら、手づくりで育む暮らしの奥深さ・豊かさに気づき、「農家の手づくり生活」を伝えたい、広めることができたら…と考えておりました。子育てが一段落した頃、そうした思いを役場に相談すると「農家ではないが、同じように考えている人がいるよ」と紹介していただき、活動をスタートしました。

苦勞

JAから、同じ志を抱く仲間を紹介してもらい、内閣府が募集していた起業コンペに応募し合格、開業資金を獲得、食を絡めた地域活動を目的に「NPO法人ココ・カラ」を設立、概ね順調に進んでいきました。が、1年ほどたった頃、一緒に立ち上げてきた仲間が体調不良によりリタイア。書類作成などの事務はほとんどその方が担っていたので、かなりのダメージ。町役場の親身なバックアップに助けられ、現在に至っています。設立して5年が経過。常に地元を目を向け、「何をやっているの？」と言われないう、気を引き締めています。

満足度

でっかい！北海道では、私たちの活動ステージは小さなエリア。良くも悪くも活動の姿をまちの方々はつぶさに見ています。そんな中、「この仕事ができるのは“ココ・カラ”しかないね」といった地域の方々からの声を耳にすると、必死でやってきたことが無駄ではなかった…と思えるのです。私たちのコンセプトは、地元の素材を使う・お母さんの味を提供する、ことです。メンバーが畑作をしているので、私たちの提供する弁当は野菜たっぷり。味噌、味噌をつくる為の麴も手づくり。食でつながれば、みんな笑顔。それが嬉しい！

これから

最近、「身の丈」というフレーズが脳裏にチラホラ。起業セミナー等で講師の方から、「首都圏に進出」「東京での販売」などが起業の成果として示されるからかな？「地元発信・コミュニティ創出」がテーマの私たちの活動とリンクできるのかな？今の夢は「仕事付きアパート」の開設。シニア世代へ、元氣なうちは仕事を提供しつつ、孤独な生活に陥らないような居場所を創りたい。未来への夢をみんなで育みつつ、当面の目標は、「きちんと税金を納めることができる」団体となること、しっかり大地に足をつけ、歩みたいのです。

北の★女性たちへのメッセージ

地元の豊富な素材を活かしたいと始まった、私たちのココ・カラ。「ココロもカラダも美味しい時間を提供する」「安平町のここから発信する」、そういう思いのココ・カラです。誰も皆、支え合いながら生きていく。それに感謝しつつ、それぞれの場所で、小さな光を発信し続けましょう。

日高【日高町】

たなか せいこ
田中 静子さん 里平食楽カモミールの会 代表

1958年生まれ、新冠町出身。静内高校を卒業後、実家で農業に従事。1980年に結婚、夫が農業を営む日高町里平に。地元の良質なお米や野菜を活かした食品づくりを通して、消費者の心を癒したいとの思いから、里平地区の農業主婦が集まり「里平食楽カモミールの会」を結成。



伝統の味をしっかりと受け継ぎ、食で人の心を癒したい

きっかけ

5年前に里平地区の農業主婦（佐藤さん、椎名さん、渡邊さん）と一緒に、地元の美味しいお米や野菜を使って、消費者の心を癒すことができるようにと「里平食楽カモミールの会」を結成。翌年、管内で一軒となった老舗の「高橋こうじ店」さんが後継者がなく閉店すると聞き、3年間、会のメンバーと一緒に約23km離れたお店に通って製法を学ぶことに。昨年11月には、自宅の物置を改造して約6畳のこうじ室（むろ）を整備し、地元産「ななつぼし」を使って生糍の製造を開始。今年2月から「生米（うまい）こうじ」の名前で販売を始めています。

苦勞

特に苦勞したという記憶はありません。逆に、昨年、自宅の室でこうじ作り始めたときには、こうじ店の高橋好子さんに泊りがけで温度や湿度の管理を指導いただいたりして、感謝の気持ちしかありません。1月には、新聞でも全道版で記事が掲載され、3月末にはテレビでも放映されたため、道内はもとより、全国から注文が殺到してびっくりしました。製造できる期間が11月から3月までなので、お客様に事情を説明するのが大変でしたが、同時に「よし、今年も頑張りよう」と思いました。

満足度

こうじの製造サイクルは4日です。4日目の朝に、こうじ菌をまぶして寝かせていたお米が、綿をかぶった繭（まゆ）玉のようになっていれば、うまく出来上がった証拠です。その時は、安堵感や嬉しさで一杯になります。私たちの作ったもので、お客様が美味しいと感じて、心を癒していただければ、それは生産者である私達にとっても、この上ない喜びであり、私達の心も癒され、また頑張りようと思う元気が出てきます。「カモミール」はハーブティー（癒し）としても有名ですが、消費者も生産者もともに喜び癒されることが私たちの願いです。

これから

これからの目標は二つあります。一つ目は、百年、三代続いた「高橋こうじ店」の伝統の味をしっかりと受け継ぎ、忠実にお店の味を再現するのが、私たちの最大の目標です。二つ目は、塩こうじや醤油こうじ、甘酒を自分達で製造・販売することです。こうじは、漬物やいづし作り、味噌作りなどに欠かせませんが、どうしてもレシピが限られます。どのような料理に使うのか、お客さんにもお聞きしたりしていますが、一人でも多くの方にこうじの素晴らしさを知っていただくため、これから、商品の幅を広げていきたいと思っています。

北の★女性たちへの
メッセージ

北海道の冬は長くて厳しいですが、逆に何かができるチャンス、絶好の機会と前向きにとらえることも大事。何人が集まれば必ずよい知恵が出てきます。まずは、何かを始めてみる勇気を持つことです。人とつながり、いきいきとした人生を歩みましょう。

日高【新ひだか町】

いそがい
磯貝せつ
節さん

みついし昆布株式会社 代表取締役

1929年生まれ、三石町（現新ひだか町）出身。札幌の女学校を卒業後、三石町役場の職員として勤務。その後、町の保育園で23年間保育士・管理職として勤務、創業者であった夫の急逝を機に1990年「みついし昆布」を引き継ぐとともに日高地区漁婦連合会長に就任（2002年まで）。



気軽に昆布を味わえる、女性目線のアイデア商品

きっかけ

町の保育園で二十数年勤務しておりましたが、1989年に「みついし昆布」創業者であった夫が急逝し、悲しみに明け暮れる暇もなく、会社をどうするか決断を迫られました。「昆布は男の商売」と周囲の冷やかな反応も一部あったのは確かですが、翌年、長女（故人）、長女の嫁の女性3人で会社経営を引き継ぐことにしました。同時に、日高地区漁婦連合会長も引き受け、「和の心」を持って皆さんと一緒に頑張っていきたいことを伝え、その後12年間、様々な経験をさせていただくことになったのです。

苦勞

最初は右も左も分からない状態でしたが、夫の漁師仲間にはずいぶん助けられました。良質な昆布を取引できるのも、信頼のおける漁師さんあってのこと。また、「（昆布は）長いものほど良い」という先代の考えから、女性ならではの「使い勝手の良い商品開発」へと転換しました。昆布の加工は手作業のため、いかに手早く綺麗に仕上げられるかが重要ですので、パート従業員には、感性を養う意味も含めて茶道に触れる機会を設けています。楽しく笑顔で働いてもらうため、創意工夫を凝らしています。

満足度

弊社では甘くてうま味成分が高い一等品・二等品の昆布を中心に取り扱っておりますが、栄養成分にも優れ、日本の食文化に欠かせない昆布を手軽に味わっていただくため、「みついしきざみ昆布」を誕生させました。ダシではなく、「食べる昆布」として現在も好評ですし、他にも無添加のドレッシングや自分で作るふりかけ、昆布の風味がクセになるソフトクリームなど、商品も多彩となりました。また、茶道（裏千家）の指導もしており、生徒さんや茶道仲間と過ごす時間が仕事の場でも役立っています。

これから

これまで紆余曲折がありましたが、1957年の創業以来、会社を守っていくことができ、まずは現状を維持することが大切だと考えております。昨年、家業と生活クラブ生協の活動を精力的に行っていた長女が亡くなり、勤め人だった長男が長女に変わって経営に携わるようになりました。これからは長男のカラーで築き上げる変革期ですので、あまり口を出し過ぎず、見守るスタンスでやっていくつもりです。今後も週末は店頭で立ちながら、お客様との会話を通して昆布の魅力を直接伝えていきたいと考えております。

北の★女性たちへの
メッセージ

目標は高く掲げた方が良いと思います。何事も気の持ちようですので、常にプラス思考で物事を捉えるようにし、日々頑張ること。そして、何より大切な事は「素直な心」を持つこと。努力は必ず報われますので、笑顔を忘れず過ごしてみましょう。